文化財ボランティア

火曜会通信

第22号
発行日：平成16年7月1日
発行　：伊丹市文化財ボランティアの会
発行所：伊丹市千僧1丁目1番地
伊丹市教育委員会事務局内

火曜会とボランティア活動

服部　浩夫

５月度の定例会において、会員の皆様からさまざまな質問や疑問の声があり火曜会（伊丹市文化財ボランティアの会の略称）活動や会のあり方を考えるよい機会になりました。火曜会の活動目的は、会則に「～文化財の調査・研究・学習を通じて自己の向上を図り、ボランティア活動を通して広く市民に還元する～」と定められております。この文言を念頭にして火曜会の活動のあり方を述べてみます。

活動目的を別の言葉で言いますと、「郷土の歴史や文化を会員がお互いに楽しく学びつつ、よろこびや生きがいの発見につながる市民ボランティア活動をしよう」と理解されます。会員がお互いに楽しく学ぶためには、まずは自分の好きなことやテーマを明確にしてそれを核にした調査や研究をし、同好の人たちと情報交換することから始めたらよいと考えています。そして、その情報交換の場が分科会や研究発表や屋外研修にあると信じます。また、その成果をガイドブックとしてまとめたり、屋外研修で得られた知識や先人の知恵をボランティア活動に活かしたりしていくことも自分たちのよろこびにもなります。したがって、あくまでも諸活動は自らの意思で自主的に行うものであって、会やグループの定めが優先するものではありません。負担を過度に感じる場合は、その旨を仲間たちに伝えることも必要でしょう。

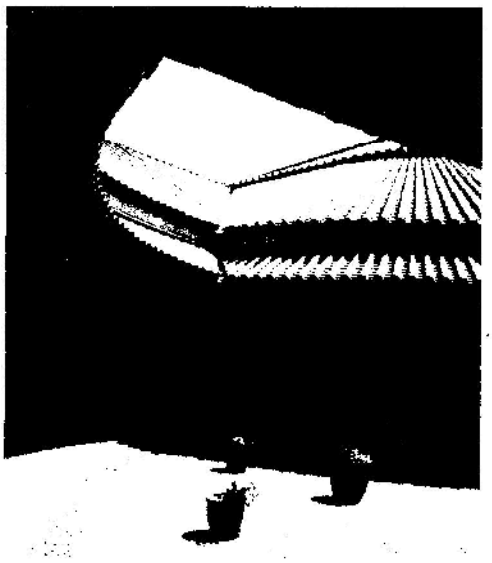
会が方針やルールを定めているのは活動するときに相手側が安心感をもち、個々人の活動がやりやすいようにするためのものです。会員には専門的な知識を持つ人、黙々と歴史の研究を続けている人、活動を楽しく盛上げてくれる人などすばらしい方々がおられます。自分の好きなことは調べたり訪ねたりすることは少しも苦にはならないものです。ましてや、望みがかなったときの満足感はささやかでもうれしいものです。学んだ知識や得た情報を話すことによってさらに詳しいことを教えられることもよく経験します。会は仲間づくりや、やりがいなど楽しみながら末永く続けるための活動拠点であります。自らの行動は自らが決めるのが当然ではないでしょうか。同時に、このやりがいにつながるボランティア活動も周りの人々に感謝の心を忘れないようにしなければならないと思っています。

春季研修旅行　高田屋嘉平顕彰館・野島断層保存館などを訪ねて　後藤 昌弘

好天に恵まれて今回も楽しい１日でした。帰宅後デジカメのプリントも仕上げました。新メンバーも多く加わった反面、古参会員の顔の見えない面もあり、少し寂しいところもありましたが、お陰で今回も、半ば恒例になっている非会員の妻も参加できて本人も喜んでいます。何人かの非会員の方も居られたようですが、それもこの会の雰囲気の良さにあるのかも知れません。

花さじきは、花は‘小さじき’だったのは残念でしたが、花にも気分もあり、時期もあり、そのタイミングが我々の行く日と幾分かずれたのでしょう。少ないが故に新緑の中に黄色や紫色が映えた部分もあったのではないでしょうか。万事、良い方に解釈しましょう。

野島断層保存館はこれまで行きたくて行けなかった所であって、私にとってはある意味で期待の場所でした。かつて　気象庁の技術系に籍をおいたなかで数々の地震観測をして来ましたが、あれほど近くで、規模的にも大きい地震にはそう遭遇・経験できるものでない一つでした。今、一方で兵庫県の「人と防災・未来センター」でもボランティアをしていますが、ある意味では兄弟館への訪問であったわけです。震災後１年半位、西宮から西へは行きたくなかったと同様に、淡路の現地を見る気がしなかったのです。しかし、今回訪問して、神戸と淡路の現地はやはり一つの歴史として、また、防災への対応・対策の面からも語り継ぐ場として、その大切さを実感した次第です。遠い地からの来訪者は、神戸もそうですが、その実感がわかないのは事実です。我々が北海道方面での大地震の悲惨さを実感できないのと同様に。歴史はそう云う階段を乗り越え、新しい歴史につながっていくような気もします。



高田屋顕彰館では、当時の情勢では実現することが困難と思われることを見事に成功させた立派な人物が居たことに改めて大きな感動を覚えました。
同時に、昨今の世の中、自分の損得のみに執着しての言動の多い政治家等にあっては、とりわけ「範とすべきところ甚だ多し」の感も否めません。
とまれ天気にも恵まれ、収穫も多い研修旅行でした。

主な行事予定　定例会（7月～10月）

7月13日（火）	研究発表	俳句に見る伊丹の酒	中央公民館
7月27日（火）	分科会	酒蔵をたずねて	阪急伊丹駅集合　9:00AM
8月10日（火）	講座	富士山蔵発掘調査結果	中央公民館
9月14日（火）	分科会	未定	
10月12日（火）	分科会	未定	

Q＆Aコーナー

Q　仏像となった菩薩像は宝冠や首飾りなどをつけて華美なお姿をされていますが、何か意味があるのでしょうか？

A　菩薩像のモデルは釈尊の王子の頃の姿です。それも王子として最高に着飾った姿を像にしています。宝冠というのは、髪を結い上げてもう少し美化したいというときに、花を摘んで髪の根元に飾ったりするのが源流となっています。例えば平等院の雲中供養菩薩など、髻（もとどり）のところに花形をつけて髪飾りにしています。

また、宝冠の上部に向かって右側は赤く、左側は白く塗った円形の髪飾りがありますが、これは太陽と月を表現しているのです。宝冠の両側に下がっている紐を宝冠帯とか天冠帯と呼びますが、それは野花を摘み集めて紐を通したものなのです。胸につける飾りを瓔珞（ようらく）といい、腕につけるものを腕臂釧（わんひせん）といいますが、これは単なる飾りではありません。瓔珞は宝石でつづられているので、胸の位置につけると、暑い国では体温を冷やす役目にもなるのです。これと同じように腕釧は手首に、臂釧は肘から上につけますが、臂釧の位置は我々が手を怪我したとき動脈を止血する位置にあたり、腕釧は脈をとる静脈の位置にあたります。つまり、そういう大切な場所に宝石をつけるのです。

参考資料：西村公朝著「やさしい仏像の見方」

活動報告（水曜日担当班）

現在グループ会員は11名（男3/女4）で、昨年度までのリーダー服部現会長に替わり、今年度からは森本副会長の下に活動を展開中です。

郷町館の案内は毎週4名編成（男1/女3）で、順番に巡るスケジュールを作り、朝10時より午後3時から4時頃まで来訪者に積極的に説明をするようにしています。（なお、団体申込の場合は全員対応を原則としています）。

この郷町館案内の外に、会員親睦とさらなる見聞を広めるために、グループとしての研修探訪を行うことにしていますが、今年の5月21日には富田林寺内町（永禄初年1518～1561誕生）の散策を行いました。応長元年(1311)造立の石地蔵像のある浄谷寺や大阪府指定文化財で、寺内町創立以来の旧家である旧杉山家住宅の見学を行いました。そのあとで偶然に現地の文化財ボランティアの一人にお会いし、おかげさまで、寺内町の中心にある興正寺別院を始め、旧家の一軒一軒について丁寧な説明を受けることができ、文化財ボランティア活動の意義を再認識した次第でした。

□お知らせコーナー□

主な活動の記録(4月～6月)

＜ 郷町館ガイド ＞

4 月 9 日 (金)	伊丹市シルーバーカレッジ OB	17 名	金曜 G 担当
4 月 9 日 (金)	ラスター詩吟会	10 名	金曜 G 担当
4 月 22 日 (木)	摂津文化財愛護会	31 名	木曜 G 担当
4 月 24 日 (土)	陸上自衛隊(曹友会)	10 名	土曜 G 担当
5 月 8 日 (土)	日本セカンドライフ協会	40 名	土曜 G 担当
5 月 21 日 (金)	多田街道の景観を創る会	8 名	金曜 G 担当
5 月 26 日 (水)	芦屋川カレッジ(いちご会)	45 名	水曜 G 担当
5 月 27 日 (木)	池田市神田八坂老人会	27 名	木曜 G 担当
6 月 5 日 (土)	西野田工業 OB 会	30 名	土曜 G 担当
6 月 13 日 (日)	大阪工業大学学園校友会	9 名	土曜 G 担当
6 月 18 日 (金)	NHK 鳥取文化センター	30 名	金曜 G 担当
6 月 18 日 (金)	伊丹市立北中学校1学年	40 名	金曜 G 担当

＜ その他 ＞

4 月 24 日 (土)	アースデイ イタミ(ガイド5班)	150 名	柳沢・亀井・福岡
	須佐男神社 ～ 御願塚古墳		池田利・谷光・山内

＜ 新会員の紹介 ＞

「文化財ボランティア養成講座」を終了された下記の12名の方が入会されました。皆様と共に楽しく活動してまいりましょう。よろしくお願いいたします。

乾 美典さん　池田 孝司さん　柏木 和子さん　田中 和美さん
田中 實さん　徳岡 幸子さん　中村 享子さん　二宮 慶子さん
福井 寿彦さん　森 勝美さん　山元 龍治さん　米田 真樹さん

編集後記

4月より12名の仲間を迎え新しい年度がスタートしました。服部会長のもとにスタッフも充実し、オリンピックの年でもある今年に　大いなる飛躍を期待すると共に皆様の応援もお願いいたします。